

## 閃光

発行元

ビジネス教育訓練所株式会社

令和四年 長月号

Business

## 「白河の関を越えて」

夏の甲子園は毎年見ているのですが、今年は格別でした。ついに、地元の仙台育英高校（宮城）が東北勢悲願の初優勝を果たしたからです。冬は雪が降って野外で練習が出来ないこともあり、東北は弱いと言われてきましたが、近年は花巻東高校出身のメジャーリーガー大谷翔平選手等、世界的に活躍している選手も輩出しているだけに、そろそろ東北勢も優勝出来るのではと期待は高まっていました。

仙台育英高校の勝因は色々と言われていますが、例年の優勝校のようにいわゆるスター投手がいたわけではなく（ごめんなさい）、一四〇キロ超投手が五名、鉄壁の守り等、一人一人が一〇〇%以上の力を発揮して勝ち取った、これがチーム力なのだと感じさせる戦いでした。須江監督は三年前、仙台育英の生徒の不祥事後監督になられた方で、チームのスローガンとして「日本一からの招待」という言葉を掲げ、「『日本一』を取りに行くのではなく、『日本一』から招かれるようなチーム、高校球児になる」よう、日常生活の振る舞いから見直すよう指導されたそうです。野球だけでなく選手の「人としてどうあるべきか」も熱心に教育されていたというのが、試合終了後の各選手のインタビューからも感じられました。そのため優勝後の須江監督が選手にどのような言葉をかけるのか気になり、特集番組を見ました。「『優しさとは想像力』と常に言ってきたが、それが体現できたから今回の優勝につながったのだと思う。ベンチにいる者、試合に出る者、そしてそれ以外に支えてくれた人達にも感謝しかない。それぞれの想いを汲み取れたからこそ、今回の初優勝という結果につながった。しかしこれが人生のピークではない。早くチャレンジできる次の目標を見つけて欲しい」高校三年間だけではなく、選手達の将来についても考えていらつしやるのだなと感じられる優しい言葉が響きました。

仙台育英高校の球児やご家族、関係者の皆さん、おめでとうございます。そして感動をありがとうございます。また、この夏、戦い抜いたすべての球児たちの健闘を称えたいと思います。

ビジネス教育訓練所株式会社  
代表取締役 高谷 愛美

日々是精進

## 講師の独り言

講師  
佐藤 晃樹

## 「頑張る姿は人の心を動かす」

6月にスポーツジムの仲間誘われ、初めてリレーマラソンに参加しました。1周1キロのコースをたすきで繋ぎ、チームで42.195キロを走破するというものでした。私のチームは15名でしたが、私は3周走ることになりました。

第1走者が1キロ3分半で快走、他のメンバーも4分半前後で続きました。私は1キロのベストタイムが5分前後だったため、チームの足を引っ張ってしまうのではないかという思いもありましたが、とにかく前だけを向いて走ろうと決めました。すると1回目は4分40秒で走り切ることができ、自己ベストが出ました。次の順番が来るまでチームメイトを応援している

と、普段ジムでは走っている姿を見たことがない人が大きく腕を振り懸命に走っていたり、中にはたすきを渡した後倒れ込んでしまうほど必死に走る人もいて、それを目の当たりにした私は熱いものが込み上げてきました。皆の頑張りに感化され、全力を尽くした3周目は自己ベストをさらに更新しタスキを繋ぎました。そして最後の1周、最終走者が残り50メートル地点まで来た時、チーム全員が並走しそのままゴールイン。無事完走することができ、チーム全員で達成感と充実感を味わうことが出来ました。

リレーマラソンを行って感じたことは、仲間が頑張る姿を見ていると、自分も頑張ろうという気持ち

が自然に湧いてくるということですね。人間誰しも時には手を抜いたり、楽な方に流されることもあると思いますが、他人の頑張る姿はそのような弱い心を正してくれるだけでなく、私が自己ベストを更新出来たように、自分の秘めた可能性をも引き出してくれるものだと思います。

仕事においても頑張っている人を見ると、パワーをもらえます。頑張る人が沢山いれば職場も明るくなり、周りの人にも良い影響が広がっていきます。私も教育という仕事を通じて、関わる人たちにパワーや元気を与え、「自分も頑張るぞ」と思ってもらえるよう、今後も全身全霊で指導に当たります。



# 「管理職になりたくない」を真に受けてはいけない そんな部下とは未来の話をしよう

「管理職になりたくない」という人が増えているという話を時々耳にすることがあります。平成30年に厚生労働省が行なった調査によると、一般職の61.1%が「管理職に昇進したいと思わない」と回答しており、理由を見てみると「責任が重くなる」「やるべき仕事が増え、長時間労働になる」「現在の職務内容で働き続けたい」「部下を管理・指導できる自信がない」等があるようです。

個人の自由と考えれば、管理職にならないという選択肢もあると思いますが、管理職が増えなければ社員のマネジメント能力は向上しません。それは新しいことを始めようと思っても適任者がいなければ機会損失となり、企業の成長を鈍化させることにつながります。又、出世を拒んだ社員自身も、同期や後輩が上司になれば居心地が悪くなり、結果的に退職ということも考えられます。それは企業に

とつても社員にとつてもマイナスではないでしょうか。そう考えると例え出世を望まない社員がいたとしても、管理職になるよう促しその気にさせる努力は必要だということです。促すポイントは今ではなく未来をイメージさせることです。

管理職はなってみなければ分からないことがあります。その1つが適正です。自分は管理職に向かないと思っていた人でも、裁量権が増えたことで、自分の考えを仕事に反映しやすくなったという人もいます。又、他部署の管理職との関わりを通し、理想に近い働き方や考え方を見聞きし、管理職という仕事に対する見方が変わったという人もいます。管理職は見るのとやるのとでは全く違うということです。しかし、管理職を一度拒否すれば、管理職になるチャンスはほぼ無くなりますので、期待できる社員なら一度挑戦してみるよう勧めると良いでしょう。

管理職になるメリットを紹介します。

## ①マネジメント能力が上がる！

部下育成、プロジェクト管理、労務管理等、一般職では学べない業務に挑戦することで、知識以外にリーダーシップやコミュニケーションを高められます。

## ②新しいやりがいを得られる！

部下を育てたり、経営に参画できたりと影響力のある仕事を通し、新たな刺激ややりがいを得られます。

## ③年収アップが狙える！

管理職手当が支給されたり、賞与や基本給のアップも期待できます。今後責任者や経営層へキャリアアップするチャンスも生まれ、さらに年収アップも狙えます。

「管理職になりたくない」という人の中には、新しいことに挑戦することへの不安や先入観だけでそう言っている人もいますので、期待と評価を伝え、優しく背中を押してあげてほしいと思います。

## 📖 オススメ図書コーナー

### 『こうして社員は、やる気を失っていく』

著 松岡 保昌

前はイキイキと働いていた部下が、最近元気がない。職場の不満をこぼすようになってきている。そのような部下に対してどのように接していけばよいかわからない。または、対策を講じてもなかなか上手くいかないと感じている方はいませんか。職場のリーダーとして、モチベーションが低い部下への対処は難しいものです。

本書では、部下のモチベーションを上げるためにも、まず「下げる要因」は何かを理解し、取り除いていくことをお勧めしています。変化が激しい時代だからこそ、社員一人一人のモチベーションを上げ、自ら動く組織づくりをするためのヒントが凝縮された1冊です。

## 👁️ 合宿研修レポート

### ○7月ビジネス特訓4日間合宿

今回は7月のビジネス特訓のメイン講師鈴木大知のインタビューをYouTubeで限定公開しておりますので、スマホ等でQRコードを読み取りご覧下さい。

#### 7月ビジネス特訓①▶

・7月ビジネス特訓 (5:38)

<https://youtu.be/Do2rcugQbvs>



#### ◀7月ビジネス特訓②

・よくある質問 (5:55)

<https://youtu.be/ybf-42oleUs>

■今後12月までの研修日程※参加希望の場合は事前にお問合せください。

- ビジネス特訓4日間合宿… 9月13日(火)～16日(金)※延長あり
- 営業マン特訓5日間合宿…10月 3日(月)～ 7日(金)※延長あり
- ビジネス特訓4日間合宿…11月 3日(木)～ 6日(日)※延長あり
- 管理者特訓6日間合宿 …11月 3日(木)～ 8日(火)※延長あり
- 営業マン実践3日間合宿…11月16日(水)～18日(金)※延長なし
- 管理者実践4日間合宿 …12月12日(月)～15日(木)※延長なし

Business 社員教育・管理者教育の事なら  
ビジネス教育訓練所株式会社

所在地：仙台市青葉区愛子中央3-16-2  
電話：022-392-5511  
E-mail：kensyu@business-k.co.jp

■編集後記／今回から弊社広報紙閃光はA4サイズでお届けすることになりました。剣よりペン、ペンよりスマホの時代となり、今後は動画での情報発信も含め伝わりやすい広報活動を行なって参ります。お客様から「閃光毎回楽しみにしてるよ」という言葉を励みに制作してきましたが、今後は分量は減っても今まで以上の熱量でお届けする所存です。これからもご愛読いただきますよう宜しくお願いします。(吉田)